

2021年6月27日（日）聖霊降臨後第5主日
銀座教会 家庭礼拝

礼拝招詞「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。」

詩編 133 編 1 節

主の祈り

天にまします我らの父よ、願わくはみ名を崇めさせたまえ。

み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を今日も与えたまえ。

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。

我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄とは限りなく汝のものなればなり。

アーメン

使徒信条

讃美歌 522 みちにゆきくれし たびびとよ

聖書 マルコによる福音書3章31～35節

3:31 イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。32 大勢の人が、イエスの周りに座っていた。「御覧なさい。母上と兄弟姉妹がたが外であなたを捜しておられます」と知らされると、33 イエスは、「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」と答え、34 周りに座っている人々を見回して言われた。「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。35 神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」

牧会祈祷

天の父なる神さま、主の御名を讃美いたします。6月の歩みをお支え下さり感謝いたします。新たな月に向けて、祈りをもって歩み出すことができますように。主の恵みと力を受け、感謝と喜びの祈りの内に過ごせますように。世界中の諸教会の歩みを祝し、聖霊で満たし、神様の栄光のためにお用い下さい。

病や試練の中にあるお一人お一人の上に神さまのお守りがありますように。感染者とその家族をお守りください。私達がみ言葉と祈りの内にあなたに喜ばれる判断をしていきますように。この祈りを主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

説教 「主を中心とする交わり」

伝道師 藤田 健太

教会ではよく、お互いのことを「兄弟」「姉妹」と呼びます。名前の下に「兄」や「姉」を付けることで、その人との間にある「主にある交わり」を表現します。教会に初めて足を運んだ方が、この独特な慣習にしばしば注意を向けることは周知の事実です。戸惑いを覚える人もいれば、教会ならではの魅力をそこに感じる人もいます。

小さな教会でこの呼び名が使われるのを目の当たりにした訪問者が、「この教会の会員たちはみんな血のつながった家族なのだ」と誤解された逸話はしばしば冗談交じりに語られます。しかし、本来「家族」という言葉は、血縁関係を大切にしつつ、血縁関係にのみ縛られない広がりをもった言葉です。「家族」という言葉で主に「肉親」との関係のみをイメージする感覚は、むしろ核家族化が進み、プライベート意識の高まった近代以降の考え方であること、家族の捉え方もまた時代によって様々であることを、聖書と向き合う中で気づかされます。

たとえば、旧訳聖書では、家庭や家族のことを“ベト・アブ”（「父の家」）、あるいは“ミシュパハー”（「部族」）と呼びます。3～4世代の親・兄弟・兄弟の伴侶たちからなる大家族形態が基本です。さらにそこに財産である「奴隷」「家畜」たちも含まれます。時には短期間の間、故郷から離れ、身を寄せる「寄留者」たちがその家族の中に加えられることもあります。このような世帯ごとの構成員を包括的に結びつける概念が「部族」のまとまりです。そこから分かりますように、聖書において、本来「家族」は「生活を共にする人々の交わり全体」を意味する言葉です。聖書の歴史に即していえば、王国ができる以前の部族社会においては、このような家族の単位が生活の基盤でした。王国ができることによって、部族の独立性は弱まりました。しかし、王国が滅んだあとは、バラバラになってしまったアイデンティティを取り戻すため、このような家族や部族の単位が再び脚光を浴びることになりました。たとえば、そのような時代に書かれた文書に旧約聖書の「歴代誌」があります。歴代誌では「全イスラエル」という言葉が繰り返し使われます。解体してしまった王国時代の歴史を「全イスラエル」の歴史として再構成することで、バラバラになってしまった民たちが再び一つに結びつく糸口をさぐりました。新約聖書の書かれたギリシャ語の“オイコス”、新約時代の聖書の世界を支配していたローマ人たちが用いたラテン語の“ファミリア”という言葉も「生活を共にする人々全体」を指す言葉でした。

「教会」を意味する“エクレーシア”という言葉は「(主なる神さまの御心によって)呼び集められた者たち」を意味する言葉です。血縁関係を中心とした繋がりが「肉における家族」を形成するのに対して、教会の礼拝を中心とした繋がりは「霊における家族」を形成します。天の父なる神様、子なるキリストを礼拝する私たちは、聖霊なる神様のお働きによって「神の家族」の交わりの内に入れられます。教会の礼拝において、私たちは信仰によるお互いの一致を確認することができます。また、教会は、それぞれの家庭における交わりを顧みる場所でもあり、それぞれの家庭の恵みを再認識する場でもあると思います。

主イエスにも肉による家族と呼べる人たちがいました。クリスマスの聖書箇所としてよく読まれる「聖家族」と呼ばれるマリアとヨセフ、その子どもたちの家庭の交わりは、マタイやルカによる福音書で最も詳しく、また美しく描かれます。一方、マルコによる福音書は、神さまのくすしき御業に基づいて結びついた聖家族の交わりとは

少し違った主イエスの家庭のイメージを私たちに伝えます。本日の聖書箇所では、群衆たちと共にいるイエスのもとにイエスの「母」と「兄弟たち」がやって来ます。彼らは何をしにやって来たのでしょうか？群衆たちと同様、主イエスを通して、神様を礼拝しに来たのでしょうか？—残念ながらそうではありませんでした。彼らの訪問の理由は、おそらく、直前の「悪霊追放」の物語の中にあるのと同様の理由です。21節には次のようにあります。「身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。『あの男は気が変になっている』と言われていたからである。」主イエスの癒しの業はしばしば、神様の御業によるものではなく、悪霊の頭による悪しき力によるものであると中傷されました。その現場を押さえるため、エルサレムからはるばる律法学者たちがやって来ました。主イエスの家族もまた、身内が悪霊に取りつかれているという噂を聞きつけてやって来ました。身内が人々に迷惑をかけているのではないかと誤解し、主イエスを止めるため、その場所にやって来たのでした。

イエスの母と兄弟たちは「<外>に立ち、人をやってイエスを呼ばせた」とあります。それと対照的に、「大勢の人が、イエスの<周り>に座っていた」とあります。そこで、主イエスが語られた言葉が、「わたしの母、わたしの兄弟とはだれか」というお言葉でした。そして、主イエスは「<周り>に座っている人々を見回して」言われたのです。「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」神様の礼拝によって結びついた教会の交わりの恵みをそこに指し示されました。主イエスはここで、肉における家族の交わりを否定されたわけではありません。そうではなく、家庭にせよ、教会にせよ、人間の共同生活の交わりの中心に神様がいらっしゃることを覚える大切さを教えてくださっているのです。主イエスの兄弟ヤコブは、のちにペトロとともにエルサレム教会の指導者として活躍しました。本日の聖書の箇所で、外から人をやりイエスを連れ戻そうとした家族たちも、十字架と復活の出来事によって、自分たちの小さな家庭の交わりに神様の驚くべき介入があったことを知らされたのでした。そこから自らの家庭を顧み、教会の交わりを形成するため献身してゆきました。それゆえ、本日の物語は、主イエスの家族による誤解と分裂を伝えるエピソードではなく、むしろ、主イエスの家族の礼拝の始まりと理解することができるのではないのでしょうか。肉における家族が霊による家族の在り方を初めて目にし、そこから自らの家庭にある交わりを顧み、自らの家庭にあっても神様を中心とするように変えられてゆきました。マタイやルカにおける「聖家族」の物語の起源には、主イエスをキリストと信じる信仰が家庭の中にも受け入れられていった際の祝福と喜びがあるのではないのでしょうか。

教会の信仰が家庭内で共有されない場合も、そこに与えられている大きな祝福をおぼえたいと思います。一人の信仰者が一つの家庭に与えられている幸いというのは大変大きなもので、その人を通して、神さまの御国の恵みが家庭の中にも広がっているからです。さらに言えば、孤立や疎外、アイデンティティの喪失といった問題を抱え

私たちの社会全体にあって、教会が提供する共同体のイメージは希望に満ちていると思います。主なる神さまを中心とする教会の交わりを見つめることで、家庭や地域、社会の交わりを顧み、私たちがどこにあって、そこで主を中心とすることができるように努めたいと思います。「神の御心を行う人」として、私たちの生活の基盤をなす人々の交わりに貢献することができるように励みたいと思います。

祈り

父なる神様、主イエス・キリストを中心とした教会の交わりの恵みを教えて下さりありがとうございます。どこにあって、主が私たちの中心にいてくださることを確信して、希望と共に社会に踏み出してゆけます。「神の御心を行う人」として人々の群れに仕えることができますように。私たちの家族を祝福し、その真ん中にいてくださるあなたを見つめることができるようにお守りください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

祈 禱(各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 病を負っている方々とそのご家族に主の癒やしを祈りましょう
命の危機、不安と孤独に直面している方々に主の恵みを祈りましょう
医療従事者の健康が守られ使命が支えられますように祈りましょう

讃美歌 4 3 3 みどりの柴に かこまれたる

献 金

頌 栄 5 4 4

祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。アーメン